



私と映画と、学びの話

はじめまして。
昨年度からカイコベで非常勤講師をさせていただいている、喜多美唯です。
私は中学3年生のころ、関目教室の個別指導にお世話になりました。

現在は大学でメディアについて学んだり、映像作品を制作しています。制作を行う上で、私の中でもいつも根幹にあるのは「映画が好き」という気持ちです。今回は、そんな私の映画との関わりを通して学んだことについて、少しお話ししたいと思います。
私は昔から映画を観ることが好きで、今でも時間があると映画を観ています。高校生の頃には、世界史の勉強のためという理由をつけて、歴史を題材にした映画なんかをよく観ていました。『グラ

ディエーター』や『レッドクリフ』など、世界の歴史を描いた作品は数多くありますが、中でも『プライベートライアン』を観たときの衝撃は、今でも強く印象に残っています。とてもヘビーな内容なので簡単にお勧めすることはできませんが、見ていて息の仕方がわからなくなるくらい優れている作品でした。
もちろん、映画には歴史もの以外にもさまざまなジャンルがあり、同じテーマであっても描き方や伝え方は作品ごとに大きく異なります。最初は理解し難く感じる映画でも、じっくり観ていくうちに「あ、そういうことか」と気づく瞬間があります。勉強も映画と少し似ていると思います。最初から内容をすべて理解できることは、ほとんどありません。はじめは意味がわからなくても、何度も見返したり、誰かの解説を聞いたりすることで、少しずつ理解が深まっていきます。私自身、理解することが早いタイプではありませんでしたが、「理解に時間が

かかってもいい」と考えるようになってから、気持ちも楽になりました。映画を観るときに登場人物の気持ちや背景を想像するように、勉強でも「なぜこうなるのか」「どう考えればいいのか」を大切にしてほしいと思っています。ただ答えを覚えるのではなく、理解する過程そのものを一緒に楽しめるような時間を私も作ってあげたいと思います。また、映画では物語の後半になって、前半の出来事の意味が分かることがあります。勉強も同じで、後から「あの時の内容がここにつながっていたんだ」と気づく瞬間が必ずあります。だからこそ、今できないことがあっても、焦らず続けてください。

勉強は大変なことも多いですが、少し見方を変えるだけで面白く感じられることもあります。そして勉強に行き詰まった時はぜひ映画を見てみてください！



ルイーダのちょっとイイ話

TEACHER'S VOICE イルストレ・ルイーダ (かいち学童)

かいち学童 今津教室開校 信頼して預けてもらえる学童を目指して

放課後の学童は、ただ子どもを「預かる場所」ではありません。



そこは、子どもたちが一日の緊張を解き、本当の自分に戻る場所です。

学童の運営・管理は、毎日が挑戦の連続です。子どもたちに関わる仕事だからこそ、私たちが何よりも大切にしているのは、安全と安心。この二つだけは、どんなときも揺らぐことはありません。

勉強に向き合う姿勢を整え、学校での出来事が心に残っている子には、静かに寄り添い、決められたことをやり遂げた後は、思いきり一緒に遊ぶ。そのすべては、「今日もここにきてよかった」と子どもたちが感じられる時間をつくるためです。

一方で、先生たちの研修、学童の環境確認、保護者対応など、表には見えない仕事も山ほどあります。正直に言えば、楽な仕事ではありません。

それでも私たちは、この場所を作ることを選びました。カイコベ今津教室に学童を作ろうという話が持ち上がった時、私たちの頭にあったのは不安ではなく、期待でした。どんな子どもたちと出会えるのか。どんな保護者の方々との想いを共有できるのか。

そして、どんな学童の空気が育っていくのか。学童は、放課後という二度と戻らない時間に、大切なお子さまをお預かりする場所です。

だからこそ私たちは、「満足してもらおう」ではな



く、「信頼して預けてもらえる学童」であることを目指しました。子どもたちが安全に過ごしているか。心から安心できているか。そして、保護者の方がお迎えに来られたとき、「今日も大丈夫だった」と思ってもらえるか。

子どもたちは体が小さくても、心は確かにここに

あります。子どもらしく悩み、考え、感じながら毎日を

過ごしています。私たちが目指す学童は、心が置き去りにされない場所。

子どもたちが守られ、受け入れられ、自分のままでいられる学童です。

今津学童は、少人数からのスタートです。だからこそ、一人ひとりの表情を見逃さず、同じ想い、同じ覚悟を持って、かいち学童の魅力を鶴見区の皆さまへ届けていきたいと考えています。



【本部】 城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI 201 TEL.06-6939-0008	【今福第2教室】 城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000
【今福教室】 城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662	【関目教室】 城東区関目 4-6-17-2F・3F TEL.06-6934-8117
【蒲口教室】 鶴見区蒲口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984	【古市教室】 城東区古市 3-21-8 TEL.06-6931-0467
【今津教室】 鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722	【カイチ予備校】 城東区今福西 1-10-17 TEL.06-6935-2220
【高殿教室】 城東区成育 5-22-10-2F TEL.06-6786-1008	【万緑会】 天王寺区上本町 6-9-10-3F TEL.06-6772-5011
【エニグマ】 中央区谷町 9-4-5-3F TEL.06-6777-1563	【カイコベ】 城東区今福西 3-4-9 TEL.06-6180-6565

～公立入試を控える皆さんへ～

「努力の総仕上げに必要なこと」

このGrowingが皆さんの手元に届く頃には、私立高校の可否結果が始めている頃かもしれません。私立入試を終えてほっと一息ついている人もいれば、予想外の展開で1.5次入試の準備に奔走している人もいるかもしれません。



▲冬期の合宿の一幕
受験生のみんな、最後まで頑張ろう!!

私立専願の人はここで受験が終了しますが、公立入試を控えている人は、1カ月後の3月11日の本番に向けて、ここから新たなスタートを切らなければなりません。私立の合格を手にして安心したくなる気持ちはよく分かりますが、皆さんにとってこれはあくまで通過点。目指すべきは本命の公立高校です。

私立受験後から始まる公立対策では、毎週土曜日に公立高校の過去問題や予想問題を、本番と同じ時間配分で演習する「公立大予想模試」が実施されます。翌週の火曜日には、各自の内申点を加味した合格判定が行われます。なかなかシビアな仕組みですが、返却された答案をもとに間違い直しをし、弱点単元をテキストや問題集で補強し、公立入試特有の英作文やリスニング、国語の作文などのトレーニングを行い、その週の土曜日に実施される大予想模試に備えます。このサイクルを入試当日までに4回繰り返し、公立入試の傾向と対策を徹底的に身につけていきます。

過去問題を解いていると、「どうせ同じ問題は出ないのだから意味がない」と考える人が時々います。しかし、過去問特訓には大きく2つのメリットがあります。

1つ目は、入試問題そのものが、高校受験に精通した専門家たちが、中学3年間の学力を限られた時間で測るために練り上げた問題であるという点です。つまり、過去問の間違い直しを徹底することは、3年間の学習内容を効率よく復習することにつながります。間違い直しのポイントは、「同じ問題が出たら確実に解けるか」を確認すること。そして理科・社会の暗記系の問題では、出題されていない周辺知識も参考書に戻って復習し、必要であればノートにまとめておくことです。入試前日にそのノートを読み返すだけで弱点を一気に補強でき、最後の数点を取りこ

ぼすことを防げます。

2つ目のメリットは、「答案作り」の練習ができることです。入試は当然、点数の高い人から合格していきます。どれだけ学力があっても、時間配分を誤って最後まで解けなければ不合格になることもあります。だからこそ、問題全体を見渡して時間配分を決め、難問は後回しにするなど、自分の力を最大限に発揮できる「テストの受け方」を身につける必要があります。

特に英語のリスニングは、傾向に慣れているかどうかで点数が大きく変わりますし、自由英作文も部分点を確実に取る答案作りが求められます。これらは、練習なしには身につけません。

先生の間では、こうした力を総称して「答案作り」と呼んでいます。受験では学力の向上と同時に、この答案作りの能力を高めることが欠かせません。

この時期になると、学校では私立専願の生徒たちがすっかり浮かれモードになります。塾でも専願の生徒がいなくなり、教室は少し寂しく感じるかもしれません。「早く楽になりたい」という気持ちが湧いてくるのも自然です。しかし、公立入試は最後まで諦めなかった生徒が合格します。

内申が少し足りない、偏差値があと少し届かない——そんな不安を抱えている人も多いでしょう。でも、その学校を受験できるということは、学力的には皆と拮抗しています。偏差値や内申の差は、当日の点数に換算すると10～20点程度。1教科あたりにすると2～4点です。

つまり、ケアレスミスをするかしないか、部分点を拾えるかどうか、曖昧な知識を埋めているかどうか、時間配分を誤らなず答案を作れるかどうか——そんな僅差の勝負なのです。だからこそ、公立受験は最後まで諦めなかった生徒が合格します。私はこれまで、そうして合格を勝ち取った生徒を何人も見てきました。

皆さんは本当にここまで頑張ってきました。多くの生徒がクラブ活動と両立しながら、カイチという厳しい環境で努力を続けてきた。誰が何と言おうと、君たちは胸を張れる中学生です。

どうか最後の最後まで、やり抜いてください。皆さんの春は、もうそこまで来ています。

- 2月10日(火)は私立高校入試です。受験生の皆さんの健闘を祈っています。
- 2月7日(土)・14日(土)・21日(土)は新年度の入塾説明会・テストを実施します。新小4～新中3生で当塾に入会をご希望の方は、お電話でご予約ください。
- 2月8日(日)は珠算上級検定、15日(日)は珠算段位検定です。みんなしっかり練習しよう。
- 3月11日(水)は大阪府公立高校一般入学者選抜日、合格発表は3月19日(木)です。
- 3月11日(水)より新年度授業がスタートします。

Focus



CLASSROOM REPORT 教室レポート

受験に挑む生徒たちと、それを支える今福教室の仲間たち

岸田 圭滋 (今福教室)

○私立入試を終えて○



▲冬期合宿にこれから向かう受験生達!

寒さが大の苦手な、暖かい布団から出るのが本当に辛い季節です。

さて、この記事が手元に届く頃には、中学3年生の私立入試が終わっている頃でしょう。12月に受験校を決定し、そこから本格的な私立入試対策が始まりました。いわゆる「赤本」演習です。

赤本にはコース・学科ごとの合格最低点が掲載されています。最初からその点を超える生徒もいますが、多くは不合格ラインからのスタートです。しかし、回数を重ねるごとに点差が縮まり、合格最低点を上回る生徒も増えてきます。高校ごと、教科ごとに独特の「クセ」があり、それを乗り越えるために中3担当の先生方が細やかにサポートしてくれています。受験期は精神的にも不安定になりやすい時期です。そこで私たちが大切にしていることが3つあります。

① 表情が沈んでいる生徒に声をかける

教室に来た瞬間の表情や挨拶の声は、心の状態をよく表します。声が小さい、挨拶がない——そんな時は担当の先生がすぐに声をかけます。「赤本の点数が伸びない」「家で家族とけんかした」など、胸の内を話してくれることもあります。目を見て励まし、必要な課題を伝え、終礼で共有します。何より大切なのは、生徒に「安心感」を届けることです。

② 生徒が悩んでいる時、保護者もまた悩んでいる

終礼で共有された内容は、必要に応じて保護者の方へフィードバックします。緊急性が高い場合は三者懇談を行うこともあります。保護者の方々は、子どものことを本当によく見ておられます。だからこそ、私たちは第三者として生徒に寄り添い、必要な時は保護者と連携しながら支えていきます。

③ 受験期を支える心強い先生たち

中3担当の先生方は、質問対応にも全力で取り組んでくれています。若手の国語の平島先生、社会の入江先生に加え、理科の川西先生、英語の熊谷先生というベテランの先生方も、受験期の大きな

支えです。

平島先生は英検二次試験やS-CBT対策にも積極的に動き、生徒からの信頼も厚く、2級合格者も増えてきました。入江先生は生徒の名前を覚えるのが得意で、中1・中2の生徒にもすぐに声をかけてくれます。



▲川西先生は、生徒からの信頼が厚いです。

そして、長年中3を担当してきた川西先生(理科)は、難しい単元でも生徒が理解できるように丁寧に噛み砕いて説明し、どんな質問にも粘り強く向き合ってくれます。理科が苦手な生徒でも

「川西先生に聞けば大丈夫」と安心できる存在です。

同じくベテランの熊谷先生(英語)は、文法の基本から長文読解まで幅広くサポートし、弱点を的確に見抜く指導が光ります。生徒一人ひとりの理解度に合わせたアドバイスは、受験期の大きな支えになっています。またカイチ予備校蒲生校の教室長です。忙しい業務の合間を縫って、授業をしていただいています。高校入試のみならず、大学入試を見据えての受験アドバイスは、私も「ほお」となることがあります。

この4名の先生方が、それぞれの専門性と経験を活かしながら、生徒の不安に寄り添い、最後の追い込みを全力で支えてくれています。彼らの存在があるからこそ、今福教室は受験期を力強く乗り越えていけるのだと感じています。



▲熊谷先生の赤本解説は、とてもわかりやすいです。

○荻堂先生と大塚先生○

2025年から今福教室に新たに2名の先生が加わりました。

まずは、明るいキャラクターでみんなの人気者・荻堂先生。珍しい苗字のため「おきどう先生」「おおきど先生」と呼ばれることもあります。この機会にぜひ覚えてください(笑)

担当は英語と理科。中3の質問対応にも積極的に、仕事も驚くほど早く覚えてくれます。最近では私の先手を打って動いてくれることもあり、その成長ぶりには脱帽です。授業は明るく、時に厳しく、生徒をしっかり引っ張ってくれる頼もしい先生です。

次に紹介するのは、まじめで丁寧な対応が光る大塚先生。



▲左:大塚先生 右:荻堂先生 若い二人は、授業が上手!

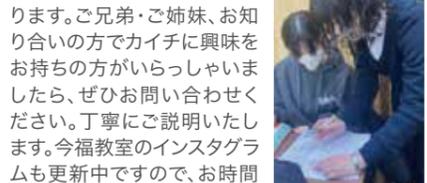
夏期講習明けから研修を始め、冬期講習から教壇に立っています。授業は回を重ねることに上達し、反省点を次に活かす姿勢が素晴らしい先生です。トーキングキッズの授業内容を保護者に丁寧に伝え、新入生の問い合わせにも落ち着いて対応してくれます。

この二人に共通するのは「若さ」という大きな力です。お金では買えない宝物です。来年度、この二人がどう輝いていくかを見守り、支えるのが教室長である私の役目です。年齢を重ねると固定観念にとらわれがちですが、二人の視点は私の凝り固まった考えをほぐしてくれます。今では欠かせない存在です。

いよいよ2月下旬には公立の特別選抜、3月には一般選抜が控えています。

今福教室スタッフ一同、最後の最後まで全力でサポートし、皆さんの笑顔を見られるよう努めてまいります。

また、中1・中2の学年末試験も2月中旬に実施されます。2月初旬から対策を進めており、努力が実を結ぶよう寄り添いながら指導しています。



▲有馬先生は、英検対策講座でも大活躍! 理科の質問もOK

最後にになりましたが、2026年度の新入塾生を募集しております。ご兄弟・ご姉妹、お知り合いの方でカイチに興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひお問い合わせください。丁寧に説明いたします。今福教室のInstagramも更新中ですので、お時間のある時にご覧ください。寒い日が続きませんが、どうぞお身体に気をつけてお過ごしください。



▲1月31日 近くの皇大神宮へ合格祈願に行ってきました。

今福教室のInstagramフォローをお願いします!



Education

KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育



中3冬期合宿レポート

小幡 翔太郎 (関目教室)

今回は、年末に行われた中3冬期合宿についての様子をお伝えします。開智では、2024年度から中3の希望者を対象に勉強合宿を開始し、2024年の夏・冬、2025年の夏・冬と、2年間で4回の合宿を実施しました。今回は、その4回全てに参加した私の目から見た合宿について、お話ししたいと思います。

○冬期合宿の目的

中3の冬期講習では、受験に向けて、私立入試過去問演習・解説を繰り返し、単元を横断するタイプの問題や、教科書に載っていない事項を考慮するための力(難しい問題・時間のかかる問題はいったん飛ばす等)を錬成していきます。強度の高い演習を繰り返し、受験に向けての地力をつける一方、この時期は、公立入試対策まではなかなか手が回りません。そこで「あと一押し!」という公立志望者向けの対策の一環として、公立対策に特化した講座を用意し、冬期合宿を実施しています。



▲冬期合宿参加の講師陣。豪華メンバー勢ぞろいです。



▲合宿中の総勉強時間は、最長約33時間! 皆さんお疲れさまでした。



▲食事の中の一コマ。メリハリが大事です!



▲全教科質問OKの山本先生。スーパーサブとして大活躍でした!



▲岡本先生がこの日描いた円は、この1年で1番丸かったそうなの...

○合宿の「効果」

中3夏期合宿と冬期合宿では、目的が多少異なりますが、どちらの合宿においても、目的は「志望校に合格するための実力をつけること」。学力の向上という面で、4度の合宿を通じて感じることは、「合宿内でする勉強自体も効果があるが、参加した後の教室での勉強姿勢の変化による効果が大きい」ことです。普段の各教室でも、周りの友人らと切磋琢磨しながら成長していくのがカイチ生ですが、特に合宿においては、他教室の生徒からも大きな刺激を受けます。合宿が終わり教室に帰ってからも、授業外で自習に来たり、熱心に質問に来たりする子が増え、生徒達への、同年代からの刺激の大切さを感じさせられます。

○生徒・先生の成長の場としての合宿

また合宿は、教えている先生側の成長の場にもなっています。普段の授業では、教材会社から購入した塾用教材を用いて授業を行います。合宿の教材は、授業テキストから演習特訓用の問題集まですべて担当の先生がオリジナルで作成します。正直かなり大変ですが、作成を通して入試問題に再度向き合ったり、塾のカリキュラムの棚卸をしたりする中で、普段とは違った視点から教科指導について考えるタイミングになります。そういった意味でも、また、普段とは違う生徒への授業を行う(めっちゃ緊張します!)という意味でも、合宿は、講師の成長の場にもなっています。



▲合宿初参加の辻田先生。空き時間にも板書練習など、熱心に準備していました。

○自己申告書

合宿の中では、公立高校に提出するための「自己申告書」の添削も行いました。自己申告書は、公立高校出願時に提出するもので、中学校生活で学んだことや、高校で学びたいことなどを中心に、高校に対して自己アピールするものです。添削をしていて感心したのは、部活での経験、生徒会や委員会活動での経験、定期テストや受験勉強を通しての経験、将来なりたい自分になるために高校でしたいことなど、生徒の皆さんが中学校生活を通して、人としての成長をたくさんしていることです。中には、学生生活を通して学んだこととして、「目標を決め、それに対する計画を立て、実行していくことが大事」と書いている人もいました(しかも一人ではなく、何名も!).これはカイチの先生が、授業や日々の学習、テスト勉強を通して皆さんに伝えたいと考えていることです。そういった大切なことをつかんで受験に向かう皆さんはとてもカッコイイですし、これからの人生、何があっても乗り越えていく力を持っていると感じます。



▲自己申告書添削中の一コマ。夜間は自己申告書添削と、特訓プリントを進めました。

○受験生の皆さんへ

今回は合宿についての記事でしたが、カイチはそもそも他塾に比べて、厳しく、たくさん勉強する塾だと思います。そんな中で一生懸命頑張ってきた皆さんは、ぜひ胸を張って、これからの人生を歩んでいってほしいと思います。世間ではAIの進歩で人間の職が奪われる、日本は人口減で大変だと、ネガティブな話題も多いですが、生きる力にあふれた人は、どんな世の中になっても活躍の場があります。カイチの卒業生として、皆さんの活躍を祈っております。